

NO211

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724(83)4663

驚き!!

去る六月六日に兵庫県赤穂市で行われた100キロウルトラマラソン(二・五キロ周回)に参加された石井さんが、なんと驚くなかれ、八時間台で完走されたとのこと、この日は梅雨の合間で泉南市でも気温が三十分近くまで上がった日、それに五月の連休にも二五〇キロに挑戦したばかり、本当にすごい人が走ろう会に入会されたものです。ちなみに目標は何ですかと尋ねたところ別大マラソンとのこと、この大会の参加基準タイムは、二時間四十分とか、會員の皆さんも期待して応援してあげて下さい尚、泉南走ろう会に入会したきっかけは、西さんを目標にされたとのことでした。

お知らせ

一、例会

七月十一日 九時集合

場所 種河神社

コース 未定

七月二十五日 九時集合

場所 種河神社

コース 未定

二、泉南走ろう会の親睦大会参加について

神鍋高原マラソンの参加者は、会長他十名程度と言う事になりました。何と言っても真夏のレース、体調には充分に注意して、参加される様に無理は禁物です。



越えられなかった二五〇キロ

去る、五月の連休に、これまで何度か機関紙に書かせてもらった萩往還マラニックに参加した。参加を決めた時点で、中途半端な練習では完走できるものではないことは、重々承知していた。そのため、去年の十二月から本格的に練習を重ね、距離も今までにない距離を走った。しかし、二五〇キロと言う壁を越える事は出来なかった。でもなせかりタイヤした時は、悔しさ、残念さはなく、それよりも来年もう一度挑戦しようという気持ちの方が先に起きていた。二五〇キロ! 誰もが簡単に走れる距離ではない。参加するだけでもなかなか決心がつかない。そんな大会が萩往還なのかもしれない。自分では最悪でも、ギリギリ、時間内には帰ってこれると考えていた。「取らぬ狸の皮算用」である。甘かった。この大会を完走された遼前会長の偉大さをあらためて痛感させられた。

レースを振り返ってみると、五月二日夕方六時に、瑠璃光寺をスタート。一時間ほどで薄暗くなり、夜を徹しての走りは、熊野黒潮でも経験はあるが、実に辛い。時間の割には距離が伸びない。屋の倍は疲れる様な気がする。四十二キロ過ぎで徳山さんに追いつき、しばらくすると石井さんが来て二人は、すぐにスタートしていく(十一時頃)。この後、豊田湖(五十キロ過ぎ)の食堂で追いつき、一緒に走り始める。この日は天気も良く山道も月明かりで思ったより明るく走りやすい。七十キロを過ぎる頃には、夜が明け始め、長いナイトランが終わった。八十六キロ地点で朝食をすませ、徳山さんが先にスタートしていく。少し遅れ、私も食堂を出るが、休み過ぎたのか、足が動かない。仕方なく、歩き、走りの繰り返しとなる。このころから海岸線、九十七キロの俵島折り返し手前で急に道が狭くおまけに急な登りが続く、ここで徳山さんとすれ違う(八時頃)、一〇七キロの川尻岬のチェックポイントで、徳山さんに追いつく、この時点で二十七、八番。少しして石井さんも到着。次のチェックポイント(二五キロ)である千畳敷(三三〇メートル)までの十八キロは、急なアップダウンが続く、千畳敷手前で一気に頂上まで登る。ここで徳山さんの底力を知ることとなる。歩く私を尻目に、一気に登り、見えなくなる。頂上に着くと、川尻岬で、膝の調子が悪くなり、リタイヤしたという石井さんが先に到着していた。この後、一五三キロの鯨墓までは、何とか歩きを入れ走ることが出来たが、結局、リタイヤする事となった宗頭(一七五キロ)まで一人ポツツで歩く事となる。宗頭手前から風雨が強くなり最悪である。

徳山さんに、萩往還への参加を勧めておきながら、先に自分がリタイヤする事となり走る気力を殺いでしまい、申し分ない気がしてならなかった。徳山さんが、そのままレースを続けていけば、余裕を持って完走出来ていたと思う。今回は、三人共、リタイヤと言う結果になったが、来年又、挑戦したいと思っている。次は、足でまといにならない様、今回の経験を生かし、練習方法も考えたい。最後にレース中色々とお気を使っサポーターに頂いた、徳山さんの御主人に感謝致します。

岡田

川尻岬にて、

